

# 分科会討議日程

## 第21分科会 「教育条件整備」

共同研究者氏名(所属)	小澤 浩明(東洋大学)
分科会役員氏名(学校名)	西倉 光人(栄中学校)

11月4日(土)

時間割	レポート題名	学校(支部)	氏名	
討議 I 13:00～ 15:00	討議の柱:初任研指導について			
	1	課題提起	下水内	西倉 光人
	2	自己紹介	下水内	西倉 光人
	3	初任研指導を通じて	下水内	西倉 光人
	4	教職員、生徒に備品を紹介しました	長水	大野 真梨子
討議 II 15:10～ 17:00	討議の柱:学校統廃合			
	5	学校統廃合から地域を考える	下水内	西倉 光人
	6			
	7			
討議 III 17:00～ 17:30	まとめ			

参加者への 連絡事項	
---------------	--

## 第 21 分科会教育条件整備課題提起

今年は夏が長く続き異常な高温が続きました。また、3年前から続いていた新型コロナウイルスが2類から5類へ移行したものの、その影響は依然として存在しています。このような状況下において、学校では児童生徒や教職員の健康を一番に考えながら多くの行事が復活してきています。

新型コロナウイルスに関して、いまだに国より予算が降りてきています。従来よりも金額が少なくなっていたり、使用用途の制限があったりとひいき目に言っても使いやすい予算とはいえない現実があります。交付開始から数年たった今こそ、新型コロナウイルスに関する予算は適切に使われていたのかを改めて振り返るいい機会だと思いませんか。

新型コロナウイルスの影響は経済的活動にも暗い影を落としています。家庭においては一部必需品の値上がりの影響は当たり前のこととして、保護者の勤務先の営業不振による収入減も大きく報じられました。このような背景があり、新型コロナウイルスの影響による収入減も就学援助の対象事由となりました。実際にどれぐらいの家庭が就学援助に追加認定されたのか気になります。

一部自治体では以前より児童生徒の給食費一部補助が行われてきました。新型コロナウイルスの影響で一時的な給食費の補助や無償化を行った自治体が増え、県内では18町村が無償化しています。いくつかの自治体では新型コロナウイルス関係の補助金がなくなっても給食費補助を継続する方針が打ち出されています。

話は変わりますが、給食については会計上の処理として補助金による無償化と税金として扱う公会計化が話題に上がることが多くなっています。また、各種校内集金（学年費、旅行貯金、給食費など）は学校内で効率化できる業務として働き方改革の話題によく挙げられます。これら会計の在り方について校内で教員から離そうという議論がされる一方で、一部の職員への業務負担の偏りを生んでいます。

学年費や旅行貯金の内容について教員はかかわっていないのでしょうか。むしろ、決めて発注しているのは教員であるのに集金処理に全くかかわらないのはおかしいように思います。校内で児童生徒や保護者の立場に立った議論がされているのでしょうか。集金額だけでなくその内容もいま問われています。

長野県内では多くの校区で統廃合が進んでいます。私の勤務する自治体の周辺で見ると、栄村、飯山市、中野市、山ノ内町で学校統廃合の話が進行しています。地域の事情を考えて進んでいる場合もあれば、教育委員会から話が来て進んでいる地区もあると思います。地域の事情も様々ですが、通っている学校（校名や校舎）がなくなることは寂しいです。また、統廃合のために教職員もやるが多くなります。あなたの地域では今どのような状況でしょうか。

大きく変動している状況で今学校はどうなっているのでしょうか。「学校の今」と児童・生徒、保護者にできることを考えてみませんか。

## 初任研指導で伝えたいこと

ながの制度研（栄中学校） 西倉 光人

私は新潟県境にある全校生徒 18 名の中学校に勤務しています。学校の規模から想像できるかもしれませんが、小さな校舎に職員と生徒合わせても 40 人程度しかいません。立地や通勤の事情によりなかなか赴任を希望する教職員はいません。そのような状況の中、今年は今新規採用者が赴任することになりました。

過去に私は新規採用者の赴任を 2 校目の中学校（愛知県との県境の小規模校）でも経験しています。その時は 2 年連続で新規採用者が赴任して来ました。初任者の赴任後に初任者研修（以下初任研）を受けます。日常での会話で伝えられることも含めて、どうしても研修資料にしなければいけないことなど多くのことを初任者に伝える初任研は大事な第一歩だと思っています。

さて、学校事務職員は初任研にどの程度関わっているのでしょうか。私の周りでは関わっていない学校事務職員もいます。しかし、初任研の中には学校事務職員も関われる内容があります。服務や旅費などの決まり事が一番想像しやすいかもしれません。では、それ以外の事項はどのように初任者に伝わっているのでしょうか。

### 1 初任研指導に思うこと

学校はそれぞれの地域の事情を抱えています。そのため、児童・生徒の様子は学級や対応する職員によって変化します。一般的に生徒指導や学級経営の領域とされる事案について、私は以前から思っていることがありました。それは、それらの対応が家庭の背景や地域の状態を無視している時があったためです。例えば、就学援助の対象世帯への声かけや一人親家庭への接し方に職員の思い込みによる偏りはないでしょうか。

### 2 今年の初任研指導のテーマ

最初にも書いているとおり、勤務校は小規模校です。大規模校と違って、人数が少ない小規模校は人間関係が密です。その人間関係の中で地域特有の事情や家庭の事情が関わってきます。小規模校であっても、対応に気を使う家庭や学校集金が引き落としできない家庭は一定数あります。そこで、家庭の環境を考えて対応する大切さを伝えたいと考えました。

### 3 実際の初任研指導資料から

初任研指導資料は2で書いたような観点で作成しました。そのため、児童・生徒の環境や学校内の職員との連携、校外の諸機関との連携を中心としました。勝手なイメージですが、多くの学校事務職員の行う初任研指導はサービスや旅費の決めごとを扱っているように思っています。(そうじゃない方もいるかもしれませんが) それよりも家庭の事情も理解した上で関わることの大切さを伝えたいつもりです。

### 4 おわりに

実際の初任研指導とは別に日常的に話しかけることで、サービス等の話は初任者へ伝えていきます。基本的なことは伝え続け、一緒に書類作成することもあります。今では初任者が旅行命令票を自分で作成し、分からなければ聞いてきます。休暇の取り方も初任者自ら判断し、時に私と相談しながら確認しています。

私が思う一番大事なことは、自分一人で抱え込まないこと、そして児童・生徒に思いをはせることです。そのためには他の職種との協力や諸制度への理解、その上に成り立つ人間関係が必要です。この初任研資料がいつの日か役立つことを祈っています

学校に関係している様々な人に目を向けてみよう

- 1 「こども」を漢字で書いてみましょう。
- 2 なぜその漢字を使ったのか説明してみましょう
- 3 生徒と関係が深い人を挙げてみよう



生徒

- 4 3つの家庭を考えてみよう
- A子： 両親と3人で暮らしている  
クラスでは中心的な役割を果たしている
- B子： 母と弟と3人で暮らしている  
母はいつも忙しく、弟の世話はB子が行っている
- C子： 父と2人で暮らしている  
父は地域でも有名な企業に勤めている
- ① 1番欠席が多そうなのは誰？
  - ② 一番成績がいいのは誰？
  - ③ 本人の進路の希望は？

- ④ 一番困っていそうなのは誰？  
5 困っていることは誰にでもある

「貧困」の定義：

「貧乏」の定義：

「進学できない」理由は何パターンもある

- ・収入が少ない
- ・収入はあるが、支出も多い
- ・親が許さなかった

## 6 学校に係る費用に関する支援制度

### ① 就学援助

世帯年収が地方自治体の指定する所得金額以下の場合に、学用品費や修学旅行費、給食費などが給付されます。一定の所得条件を満たすこと以外に、保護者の失業や離婚などの状況変化があった場合にも就学援助が受給できます。

### ② 特別支援教育就学奨励費

特別支援教室（学校）に在籍している児童・生徒や、通常学級に在籍しているが医療機関による入級判断が下されている児童・生徒が受給できる支援制度。学用品費や修学旅行費、給食費や校外活動費などの支給費目がある。就学援助との同時受給はできず、どちらの条件も満たす場合は就学援助が優先される。

### ③ 生活保護

「最低限度の文化的な生活」を保証するための制度です。必要に応じて申請することができます。医療機関の受診に関して制限があったり、ケースワーカーとの面談が受給条件であったりします。

修学旅行等で健康保険証を集めることがありますが、生活保護世帯には健康保険証がありません。また、条件を満たす医療機関へ担当ワーカーに許可を取ってから行きます。クラスに生活保護世帯の児童・生徒がいる場合には気をつけましょう。

### ④ 児童扶養手当

主として一人親家庭の保護者へ支給される支援制度です。学用品費などが支給されます。厳密には、教育委員会ではなく民生課が関わっている福祉制度の一つです。

Q. 上記の条件を満たす全ての家庭が制度を利用していると思いますか？

## 7 保護者と学校・地域

例えばこんなことがあったとしたらどうしますか？

1. 最近車や家電を買い換えた保護者が就学援助を申請してきたら、あなたはどのように思いますか？

どんな人達がこの話に関わるでしょうか？

2. 児童・生徒の父親または母親もしくは両親が国外にルーツを持つ場合どう対応しますか？

どんな人達がこの話に関わるでしょうか？

まとめに

学校の職員が一人で解決できることは限られています。学校に在籍している児童・生徒の環境を学校職員それぞれの立場で支援していることを知ってもらいたいと思ってこの資料を作りました。

ふとしたことから始まる関係によって、困っている保護者をいろんな人（機関）へつなげることができるかもしれません。また、自分自身にとっても多くの人（児童・生徒や保護者、外部関係者など）との出会いは新たな視点を広げるきっかけになります。この資料がその一助となれば幸いです。

## 教職員、生徒に備品を紹介しました

教職員および生徒へ備品を周知するため、今年度に新規購入した備品の一部を載せた壁新聞を作成しました。模造紙に印刷し、校内に掲示しています。

### ◎工夫したポイント

- ・ 生徒に備品を意識してもらえよう授業で使用しているなじみのある備品を掲載。
- ・ 備品が幅広く使われていることを知ってもらうため、生徒が使用する備品だけでなく、教職員が使用する備品も掲載。
- ・ 公費とのかかわりを意識してもらえよう、備品は主に公費負担である旨を豆知識として紹介。





## 学校統廃合について考える

ながの制度研 西倉 光人

全国には多くの学校があります。それらの規模は大小様々であり、地域に根ざした学校です。その中でも小規模校は、地域とのつながりが強い傾向があります。しかし、昨今の自治体予算の縮小や、文部科学省による一定規模学級の実現のために小規模校の統廃合が進んでいます。

長野県においても多くの学校統廃合が進んでおり、信濃毎日新聞で地域欄を見ていると閉校行事や統合のニュースが毎年のように載っています。県立高校や公立小中学校、公立保育園にいたるまで多くの校種で統廃合が進んでいる状況です。地域の学校が消えることで何が起きるのかという壮大な社会実験が起きているように感じています

### 1 私の異動遍歴

私は現在 4 校目の栄中学校に勤務しています。1 校目を除いてすべて小規模校であり、へき地 1 級地に指定されています。へき地手当の支給対象となる学校のため、交通の便や生活に支障をきたす要因があると認められていると言えます。

へき地校での生活はそこまで不便なのかというと、個人的にはそこまでではないように思います。確かに都市部とは違ってすぐ買い物に行けなかったり、専門店が遠かったりと不便なことはあります。しかし、そこに学校があることは、昔からの生活の息吹が今も地域にあることを感じさせてくれます。

2 校目の阿南第二中学校、3 校目の川上第二小学校、4 校目の栄中学校に共通することがあります。それは、3 校ともに校名や場合によっては校舎が消える運命にあるということです。学校統廃合について、地域の反対運動やあきらめといった感情が入り交じる現状を見てきました。かつてあった学校がなくなり、そして後利用されなければ取り壊される運命にあります。

### 2 栄村の統廃合計画

私が栄村に赴任する直前に、栄村では栄小学校と栄中学校の統廃合が正式に決定しました。3 月末をもって教育長が交代し、新たな教育長が赴任しました。新教育長は最初から学校統廃合を進める立場にあり、そのことを自覚している状態での赴任でした。

新教育長の公約として、ブラックボックスで話を進めないことを掲げていました。そこで始まったのが「学校を創ろう」です。「学校を創ろう」は夜や休日に行われる会議で、

村民なら誰でも参加できます。ここで議論して「村民の学校」を創ることを目的としていました。

### 3 「学校を創ろう」の実際

県下でも数少ない住民参加型の取り組みはマスメディアからも注目を集めるとともに、教育長からの積極的な広報も目立っています。しかし、その中身は学校統廃合推進の承認会議となっています。

○1年間の議論を経て学校経営目標や教育方針を決定した。

最初の1年間は村民とともに学校目標や運営方針を決めることを目的に行われました。この際、教育委員会から提案を行ってそれをもとに議論を行う形式をとっていました。集まった村民はほとんどが子育てを終えている村民であり、最新の教育理念という紹介による教育委員会提案を話し合っていました。

様々な年齢層の村民がいれば様々な視点が入ります。例えば、部活動は絶対に生徒指導のために必要だという人も、民間委託すべきだという人もいます。このように、それぞれ思っている教育理念と学校現場の様子は乖離している部分が目立つようになりました。現場の様子も踏まえて検討してもらえたらと参加した組合員も疲れて行きました。

そして、一番の問題は学校形態とそこで行う教育の議論でした。これらを決めるに当たって施設の見学や最新の教育理論の説明があったのですが、教育長の考え方を推進する案を第一に出すことや、教育長と強いつながりがある施設への見学などが続きました。

学校統廃合について決まったこと

1. 令和7年度に小学校を改装して義務教育学校とする
2. 教育スローガンは『自学共育』
3. 授業は以下の14観点を大切にする
  - ① 探求的な学び②異年齢集団の学び③自由進度学習④小中連携⑤個別最適化
  - ⑥課題解決学習⑦ふるさと学習⑧学びの多様性⑨グローバル的思考⑩協働的な学び
  - ⑪木曾基本の定着⑫共育・共学⑬自己肯定感の育成⑭新たな教育観・授業観
4. 施設は新しい形式とし、教室や学年といった概念からは離れた構造となる

○令和5年度には新校舎に関するプロポーザル型入札を行い、具体的な設計に取りかかる。

#### 4 「学校を創ろう」の何が問題か

県下でも新しい取り組みの「学校を創ろう」ですが、大きな問題を含んでいます。最初に、統廃合される学校にいる子どもや保護者の意見を聞かずに始まっています。ある程度議論が進んでから最後（「学校を創ろう」開始から1年後）に子どもや保護者にアンケートをとりました。そのアンケートも統合に反対かどうかと、小中学校、併設校、義務教育学校（その中でも校舎一体型と分離型）のどれを選ぶかでした。最初に統廃合について聞くべき子どもや保護者を一番後回しにしたと感じています。

2番目に、現在の栄村の学校の様子を十分に加味して考えていないという不満があります。それは、少ない児童・生徒数の栄村で職員が慢性的に不足していることです。そして、対応している子どもたちの様子も様々です。とても新しい教育の実践をできる環境にないと言えます。

3番目に、学校視察先が教育長と懇意にしている学校である点です。特に施設の形式は強くその傾向を含んでいます。特に軽井沢の風越学園の視察には教育長の強い意志を感じました。教育長は、「お金がかかるところを、理事長と仲良くなったから最先端の学校を安く視察できます」と公言していました。視察を行う頃には「学校を創ろう」の参加者は固定化し、多少の議論があるにせよ承認機関のようになっている状況でした。一定数の参加者が教育長に近い考えを持つようになっていたため、最終的な視察の結果も含めて教育方針もほぼ風越学園のものが採用されています。

教育長は、「学校を創ろう」に参加しないものが決定事項に異議を述べることは許されないと述べています。そして、参加者の中には脱落していった組合員もいました。

#### 5 一方的な通告

学校統廃合の話はもう一つの問題を生んでいます。それは、小学校が改装中は1年間中学校に小学校がくることになったことです。令和5年度のPTA総会に来た教育長は、「学校を創ろう」で提案する前なのに決定事項であると発言しました。校長も初耳のこの事態は教育長の完全なる暴走です。

中学校の校舎は小さく、小学校の教室や備品を受け入れることは難しい状況です。予算要求の時期となり、来年度の工事予算取得のために教育委員会が中学校校舎へ頻繁に来ています。教育委員会としては、教室を区切ってパーティーションをつければ大丈夫だと思っています。

#### 6 1年間のために

小学校が中学校に来ることは寝耳に水でした。多くの設備は古く、2つの学校が同居するための改修が必要です。校内の電気配線や電話回線、LAN回線の追加、給食室の提供食数の限界、校舎内に児童・生徒のクールダウンできる部屋がなくなることなど課題をあげればきりがありません。

学校事務職員として一番の問題は電気代と予算の割り振りです。エアコンやPCの数が増えるとその分アンペアを上げないと対応できません。しかし、そのためのキュービクルをたった一年のためにつくる気は教育委員会にはありません。電気が落ちることは、教育用タブレットが思うように使えない状況を引きおこします。教育委員会は部屋割りが済めばすぐに対応できるのだと思っています。そして、給電板やガスの供給などは入り口が一つになっています。予算としてどのように按分するのも考えなければいけません。

教育委員会としては「たった一年」ですが、そこで過ごす子どもにとっては大事な一年です。「たった一年」のためにお金はかけられないと言われてしまいますが、子どもにとっては大事な一年であることを分かってほしいと思っています。教育長が思っている最新の教育も大事ですが、学校の日常の風景から見えてくる課題をもっと受け止めてほしいです。